

平成 27 年度 会派調査研究報告書

(視察先 1 箇所につき 1 枚)

会 派 名	新生会		
事 業 名	先進地視察	山口県萩市	
	大河ドラマ放送時の観光客の受け入れ状況について		
事 業 区 分	研究研修	調 査	

1 上田市での課題と研修・調査の目的

NHK 大河ドラマ「真田丸」が平成 28 年放送されるのに伴い、放送前後の観光客増加が確実ななか、平成 27 年放送中の NHK 大河ドラマ「花燃ゆ」の舞台となっている萩市を訪問し、放送前から放送中の観光客の状況と放送に向けての観光客受け入れ体制整備の取り組みを参考とする目的とした。

2 実施概要

実施日時	視察先	山口県萩市
平成 27 年 5 月 19 日 15 : 00 ~ 17 : 00	担当部局	商工観光部

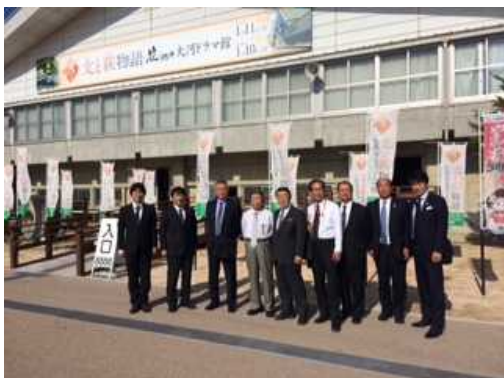
報 告 内 容	1 市の概要	
	2 市の特徴	
	3 視察事項について	
	4 大河ドラマ放送に伴う、萩市の観光客に状況	

山口県北部の日本海側に面し、人口 49,768 人（2015 年 2 月現在）の都市。江戸時代に毛利氏が治める長州藩の本拠地であった都市として有名。

観光・農業・漁業が産業の中心。山口県内では、交通整備が最も遅い地域で山陽新幹線博多駅開業時は、観光客が増加し、人口も増加したものの、その後は観光客、人口ともに減少に転じており、2005 年国勢調査においても人口減少が著しい。

平成 27 年 1 月より NHK 大河ドラマ「花燃ゆ」の放送がはじまり、観光客が増加の状況。萩市では上田市でも今後開設が予定されている、大河ドラマ館の運営を行っている。

平成 27 年 3 月の統計で、主要観光施設入り込み数は伸び率の少ない施設においても前年同時期と比較し、176%の入り込み、多い施設については 505%もの入り込みとなっている状況。



大河ドラマ館

5. 大河ドラマ放送前の取り組み

「花燃ゆ」の放送決定は放送前々年の12月に決定し、放送まで上田市と比べ大幅に短い1年余りしか時間がないなか、早期に大河ドラマ館の目標集客数を40万人に設定し、観光客の受け入れの準備を進めた。大河ドラマ館の入場料金などを早期に決定し、観光エージェントへ状況提供を迅速に行ったことにより、旅行エージェントの協力が得られ、観光客受け入れ体制も迅速に構築できた。



大河ドラマ館内部

6. 萩市における、観光客増加に伴う問題点

萩市は元々観光業が盛んであることから、上田市と違い駐車場などのハード面の整備はそれほど必要ではなかった。ただし、観光ガイドの不足、主要観光地での人と車の増加による安全面については、現在問題となっている。



市内循環バス



大河ドラマ館前に設置された
観光客向けレンタル電気自動車

7. 上田市が学ぶべき点

上田市においても、観光客の誘客目標を早期に設定し、明確な目標をもって大河ドラマ放送の効果を最大限に引き出す取り組みが必要である。また、萩市でも問題となっている観光ガイドの不足などは、上田市においても同様の問題が発生することは容易に予測される。萩市でも抜本的な解決方法はないようではあるが、放送前から早期に準備をする必要がある。大河ドラマ館の運営に関しては、旅行エージェントとの連携を更に進める必要が高いと感じた。

平成27年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	新生会
事 業 名	先進地視察 島根県雲南市 地域力を活かした健康づくり
事 業 区 分	研究研修 調 査

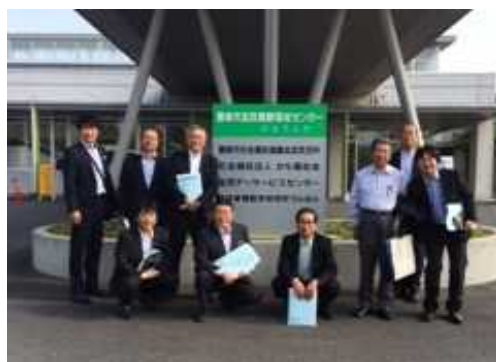
1 上田市での課題と研修・調査の目的

地域自主組織等の地域力を活かした、地域ぐるみの運動促進を先進地の事例から調査し、上田市でも実施予定の「健康チャレンジポイント」導入時の参考にする。

2 実施概要

実施日時	視察先	雲南市 身体教育医学研究所うんなん
平成27年 5月 20日 14:00~16:00	担当部局	雲南市健康福祉部

報 告 内 容	<p>1 雲南市の概要</p> <p>平成16年11月 1日 大原郡大東町、加茂町、木次町、飯石郡三刀屋町、掛合町、吉田村の6町村が新設合併した。</p> <p>人口：44,927人 面積：553.4Km² 島根県で唯一海に面していない内陸の市である。島根県の総面積の8.3%を占め、その大半が山林である。高齢人口の占める割合は32.9%と高齢化がすすみ、平成22年には年少人口割合が12.2%になる。</p> <p>2 視察事項について</p> <p>地域自主組織等の地域力を活かした健康づくりについて</p> <p>研究所設立の経緯</p> <p>中山間地にある雲南市は、年少人口割合の低下と高齢化率の上昇といった、少子高齢化社会の進展が続いている。また、高齢化率が全国平均を大きく上回るうえ、後期高齢者が人口に占める割合が高くなる社会構造である。</p> <p>身体教育医学研究所うんなんは、地域住民のからだに関わる様々な課題に対して実践的な立場で研究を行い、その成果を保健行政・福祉・教育施策に反映させる事や、その実践に向けて分野を超えて組織横断的に課題に取り組む為、これらの組織連携の核となる事が期待されている。</p> <p>研究所の理念と活動</p> <p>「生涯健康でいきいきと暮す、小児期からの健康づくり」</p> <p>「地域と共に ことごとからだを育む」</p> <p>個々に合った身体活動の促進をはかり健康寿命を延ばす。 からだを動かすことに関わる健康づくり・介護予防の研究と実践。 長寿の秘訣は地域のつながり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な人、地域とのつながりはとても大切。 ・ あなたの健康が身近な人の健康にもつながっている。
------------------	--



老化は脚から

- ・ 脚力の低下が進んだ人ほど、介護状態へ早く移行する可能性が高い
- 雲南市の高齢者の健康課題 腰・膝痛予防の運動啓発が必要
- ・ 雲南市は腰痛・膝痛の高齢者が多く、腰痛に関しては全国1位。

地域ぐるみの運動促進

運動器疾患の改善に対する身体活動の効果が明らかになってきている。
ターゲットを絞った運動キャンペーンの実施。

地域運動指導員の養成

- ・ 身体を動かす「楽しさ」と「大切さ」を伝える市民に身近な支援者。
- ・ 市民の力を活かした協働による健康づくり、介護予防の実践、波及。
- ・ 市民がいきいきと暮せるまちづくりをめざす。

社会経験豊富な市民の皆さんを地域運動指導員に養成する事で、地域の要望に応じて運動指導が出来、日常会話での健康支援をし、身近な人(友人や家族)に身体を動かす事の楽しさと大切さを伝える活動が出来る。



3 上田市への参考及び課題

雲南市健康福祉部の中に身体教育医学研究所うんなんが在り、幼児期から高齢者までの、からだを動かすことに関わる健康づくり・介護予防の研究と実践を繰り返す。組織横断的に身体活動の促進を図る事から、ターゲットを絞り運動の機会を提供している活動は素晴らしいものがあり、その活動から地域の住民をヒーロー・ヒロインにする事が可能で、より身近な人への動機付けに寄与している。

上田市が導入した「健康チャレンジポイント制度」をより有効に積極的に活用するヒントが豊富にあった。

運動とか介護予防と構えて教室に参加するので無く、いかに自然な形で身体を動かす事の楽しさと重要性を住民に理解して貰えるかが、今後の上田市に於いては重要になってくると感じた。

一つの事例として笹川スポーツ財団が主催するチャレンジデーに全国で1番最初に取り組んだのが雲南市の旧吉田村であるが、日頃運動習慣の無い住民に運動の機会を与える良い動機付けになる。長野県内では飯綱町・喬木村・東御市・南相木村の4市町村でしか実施されていないが、上田市規模の都市が参加する事の意義は大きいと考える。何れにしても高齢者を対象に運動指導・介護予防をしても健康寿命は延びないので、今後の市民に対する「運動する事の楽しさ・大切さ」を伝える施策を根本から見直す必要性を強く感じた視察であった。

平成26年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	新生会	
事 業 名	先進地視察 島根県出雲市 消防団への支援策について	
事 業 区 分	研究研修	調査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

上田市では消防団は全国でも操法大会で上位入賞を遂げるなど有名ではあるが、依然担い手不足に悩まされている。そこで出雲市の消防団を支援する取り組みの心構えを調査する。

2 実施概要

実施日時	視察先	島根県出雲市
平成27年 5月 21日 9:00~11:00	担当部局	出雲市議会事務局

1 市の概要
人口170,427名、面積624.36平方キロメートル、島根県の中東部に位置する商工業都市。出雲市は神話の国出雲として全国に知られている。

2 市の特徴
県内では2番目の人口を抱え隣接する太田市とともに県中部の中心地となっている。本市を中心に「出雲都市圏」が形成されており、また他の雲伯地方の都市圏とともに「中海・宍道湖経済圏」が形成されているとみなされている。

3 視察事項について
上田市消防団は全国でもポンプ操法大会で上位入賞するなど強豪として有名だが出雲市消防団は団員の待遇改善をはかり施設、設備の充実を行なっている。消防団員の確保等共通する問題もあり出雲市の取り組みを確認する。

4 出雲市消防団強化ビジョン

消防団は消防本部と並ぶ「消防の両輪」であり、また消防団員は本業を持ちながら、地域防災の中核として消防防災活動にあたっているが、社会情勢や住民意識の変化に伴って団員の確保が難しい状況にある。今後も少子高齢化の進展による人口減少傾向が予想され、限られた資源の中で消防団の充実強化を図りながら、総合的な地域防災力の向上を考える必要が



ある。このようなことから、消防団員の活動しやすい環境整備と住民の認識向上を図ることを目指して、消防団の充実強化の基本的な方針を策定するものである。

5. 出雲市、消防団充実強化の取り組み

1. 部の統廃合

消防団再編計画を策定し、各分団に3部以上あった部を統廃合し、原則各分団3部制とし組織のスリム化を図った。

2. コミュニティ消防センター、格納庫の整備

最低限各地区1棟コミュニティ消防センターの設置及び各部への格納庫の設置を基準とし、平成25年度にはコミュニティ消防センター棟、消防団格納庫1棟を建設し地域の消防防災拠点を整備した。

3. 積載車の平準化

手引台車のあった部へ積載車を順次配備し、平成27年度以降も積載車5台を新規配備し機動力をアップし初動体制を強化する。

4. 安全装備の充実強化

出雲市においては、消防団の装備充実について従来から努力してきた。平成23年度国の3次補正により、トランシーバー、ヘッドライト、ライフジャケット、発電機、投光機等を各部へ配備するなど、装備の充実強化を図ってきた。

5. 処遇の改善

平成25年12月「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の制定を受け、平成26年度から消防団員退職報償金を一律5万円アップし消防団員の処遇の改善を図った。



6. 上田市が学ぶべき点

これはどの地域でも共通する課題となるが一番の問題は消防団員の確保になります。少子高齢化や、山間部地域での若者の流出、地域活動に対する意識の希薄化などにより、消防団員の確保が難しい時代になっている。またサラリーマン団員の増加や雇用形態の多様化により、迅速に対応できない団員が増えていると思われます。こういった問題に対して消防団の活動や必要性を広く市民に理解してもらい、入団を促進するための広報活動を強化していく必要があると感じました。また地域コミュニティと連携した勧誘活動、消防団員を雇用する事業所の理解を得ていく取り組みを進めていく必要があると感じ上田市でも同様の取り組みを行っていただくよう要請を行いたいと思います。